

## 目指すはジェネラリスト薬剤師

在宅医療で活躍できるジェネラリスト薬剤師を育てたい——。そう語るのは、パル薬局菅生店（川崎市）の薬剤師、三谷徳昭さんだ。ドラッグストアで先駆的に在宅医療を経験し、患者の病態に応じて最適な薬物療法を医師に提案してきた。在宅には様々な疾患を抱える患者がいて、その治療に用いる医薬品は多種に渡るため、幅広い在宅の知識や経験を持った薬剤師が医師をサポートする医療体制が求められる。薬のスペシャリストではなく、医療のジェネラリストがこの国には必要と確信した三谷さんは、2014年に「ミライ☆在宅委員会」を立ち上げた。現在、メンバーは86人。在宅医療の魅力を自らの言葉で語れる薬剤師を1人でも多く増やしていくのが目標だ。

パル薬局菅生店  
ミライ☆在宅委員会代表  
**三谷 徳昭さん**

三谷さんは00年に北里大学薬学部を卒業し、ドラッグストアに就職した。薬剤師の本質業務といえば調剤になるが、病院から処方箋を応需して調剤するよりも、患者の症状に応じてOTC医薬品を提案できる仕事に魅力を感じた。



当時はOTC医薬品にリスク区分が設定されておらず、薬剤師による販売時対応も確立していなかった。三谷さんは市販されている医薬品の成分を自分で調べ、効能・効果ごとに効き目が強い薬剤、そうでない薬剤を分けて分類した。自らがまとめた分類表をもとに、患者が訴える症状から最適なOTC医薬品を選んだ。

しかし入社3年目になるとドラッグストアで行うOTC医薬品販売と患者に提供すべき医療との間にギャップがあることを認識した。痛み止めの薬を提案した患者が病院の整形外科を受診してみると骨折していたり、咳がひどい患者に咳止めの薬を勧めても症状が改善しないという状況に直面した。



ドラッグストアの薬剤師として最大限の提案をしたつもりだったが、医療として結果が出ないことに悩んだ。

三谷さんは「患者さんの病態が分からないと薬の提案はできない」と強く感じた。例えば、咳が止ま

らない原因はいくつか考えられ、咳が辛いというだけで咳止めの薬を出しても、患者が抱える問題を解決できない。患者の病態に基づいて医薬品を提案できるようになるために、病態を学ばないといけない。これが三谷さんの原点となった。

### 患者と話し薬物治療決定 専門医のサポートが役割

在宅医療との関わりが薬剤師としてのキャリアを大きく変えた。ドラッグストアでは入社5年目に在

宅医療を担当した。当時、在宅医療に進出するドラ (8ページへ続く)

勉強会立ち上げ、学会発表も



## 新卒生限定 10泊12日 ハワイ研修実施!

## 薬剤師 国家試験 対策.com

関西圏を中心に全国へオレンジ薬局を展開

**初年度年収 450~550万**

希望店舗での勤務OK! 働き次第で高収入も可能! あなたの頑張りを評価します!

- (株)プチファーマシスト
- (株)オレンジファーマシー
- (株)東京オレンジ薬局

**全国に125店舗展開中!!**

渋谷駅前店・池袋西口店・大阪中津店  
阿倍野店・芦屋店・菊川店・北浜店 等

薬剤師を目指す薬学生のための  
国家試験対策支援サイトです



ご登録・ご利用完全無料

**be89314** 検索

インターンシップ参加者募集

オレンジ・元気薬局 検索

